

(別記)

美瑛町農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

北は上川盆地、南は富良野盆地に挟まれ、東西では山岳・丘陵が境界となっており、西から北東にかけて河川が境界となる地域に位置している。耕作面積は、11,600haを有し、水田2,023ha、畑作・酪農で9,577haの面積が生産基盤となっている。

転作は59%を占め、転作作物は、小麦、飼料作物、大豆の面積が多く、その他、小豆、てん菜、野菜等が作付されており、土地利用型作物の担い手への集積が進んでいる。

一方、稼働力不足の状況のもと、経営面積・自家労力などの経営形態に応じ、適正な輪作体系の維持を踏まえた作付を推進していくことが課題となっている。米の自主的な生産調整（生産の目安）を踏まえた水張り面積の維持に加え、産地評価の向上をともなった土地利用型作物の安定化、施設栽培をはじめとする野菜作付による高収益化に向け、革新的な技術の導入を含めた栽培技術や圃場条件の向上について、担い手支援を行っていくことが必要となっている。

2 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

「生産の目安」に沿った作付面積を確保し、売れる米作りの徹底によって米の産地としての地位を確保する。「ゆめぴりか」の作付増反に伴い北のクリーン農産物表示制度「YES! clean」による付加価値をつける取組の拡大を図る。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米

生産者の所得確保のためには、コスト削減の取組が必要であり、生産性向上に向けた多収性品種の導入、労働力のコスト低減に向けた直播栽培の取組を推進する。

イ 加工用米

水田面積の維持・確保のためには、加工用米の取組・拡大が重要であり、加工米飯等の高価格帯需要に加え、味噌・焼酎・穀粉等の低価格帯の需要を含めホクレンと連携を強化し、幅広い需要確保の推進を図る。

(3) 麦、大豆、飼料作物

麦・大豆は畑地の輪作体系の維持・確保のためにも重要な作物であり、重点作物として位置づけし、産地交付金を活用し面積の維持・拡大を図る。

小麦については、需給バランスおよび稼働力バランスを踏まえた品種構成に努め、安定した品質・生産量の確保による産地評価の向上を図る。

飼料作物については、飼料作物供給者と畜産農家による利用供給協定書等に基づき契約された内容で引き続き面積の維持に努めることとする。

(4) そば、なたね

実需者との契約に基づき、現行の栽培面積を維持する。

また、そばは、他作物に比べ湿害に弱い作物であり、排水不良圃場には作付しないなど排水対策（サブソイラー、暗渠事業の活用）などの徹底を図る。

(5) 高収益作物（野菜等）

「ブロッコリー」、「かぼちゃ」、「スイートコーン」については重点作物、「アスパラ」「たまねぎ」「とまと」「一般野菜」を振興作物とし産地交付金を活用し転作面積を維持する。（「一般野菜」は別紙一覧表で整理する）

さらに、野菜同様「花き」「花木」についても振興作物とし産地交付金を活用し転作面積を維持する。

玉ねぎについては、これまでの産地保管による良品生産集出荷に加え、一次加工を主とした加工力強化による作物振興が必要とされることから、土地利用型野菜として加工玉ねぎ（剥き玉ねぎ加工販売）の振興を図る。

(6) 地域振興作物

てん菜、馬鈴しょ、小豆については、輪作体系の維持に重要な作物であることから地域の重点作物として位置づけて、担い手における作付けを奨励し、心土破碎などの湿害対策による品質向上、土壌診断に基づく適正施肥による収量向上、直播栽培による省力化を推進することにより、耕作放棄地の増加を防止するとともに、てん菜、馬鈴しょ、小豆の作付面積の維持・拡大を図る。

また、菜豆(豆類)、その他雑穀については輪作体系の維持にも重要な作物であり、振興作物と位置づけし、産地交付金を活用し転作面積を維持する。

(7) 地力増進作物

「美瑛町輪作計画」(美瑛町農業再生協議会)にもとづく輪作体系の推進を図るためにも地力増進作物は重要な位置づけとなっており、病虫害対策、土壌改良対策、増収対策の一環として、「美瑛町土づくり事業(緑肥支援)」と併せて支援する必要がある。

(8) 畑地化の推進

畑地化(永久畑転)による各関係制度・関係機関への影響度(農地の賃貸・売買、土地改良区賦課金、JA 賦課金、中山間交付金など)についての精査、助成対象者への制度理解の徹底、ならびに対象地と非対象地との整合性の整理に加えて、付随する圃場整備に係る負担対策についても総合的な検討課題として取り組む。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	平成 29 年度の作付面積 (ha)	平成 30 年度の作付予定面積 (ha)	平成 32 年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	826.6	832.6	829.6
飼料用米	9.5	1.4	1.5
米粉用米			
新市場開拓用米			
WCS 用稲			
加工用米	90.2	95.2	98.1
備蓄米			
麦	323.4	326.6	333.4
大豆	111.9	113.0	115.3
飼料作物	174.5	174.0	174.0
そば	16.9	17.0	17.4
なたね	0		
その他地域振興作物			
小豆	23.3	23.5	24.0
てん菜	51.0	51.5	53.6
馬鈴薯	27.7	27.9	28.5
ブロッコリー	11.0	11.1	11.3
かぼちゃ	44.8	45.2	46.1
スイートコーン	67.1	67.7	69.1
アスパラガス	28.7	28.9	29.5
たまねぎ	4.1	4.14	4.3
とまと	35.7	36.0	36.8
その他野菜、花 き・花木	9.1	9.2	9.3
豆類(大豆・小 豆を除く)、ラ イ麦	3.6	3.63	3.7
地力増進作物	54.0	63.7	

4 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	用途名	目標	現状値		目標値	
				(29 年度)	(30 年度)	(29 年度)	(30 年度)
1	加工用米	加工用米作付助成	作付面積 販売額	90.1ha 67,058 千円	95.2ha 71,208 千円		
2	飼料用米	飼料用米作付助成	作付面積 飼料用米の単収 飼料用米作付にお ける労働時間	1.0ha 608.7kg/10a 13.45 時間/10a	1.4ha 614.8kg/10a 12.10 時間/10a		

3	小麦	小麦作付助成	作付面積 乾燥調製利用料単 価	(29年度)323.4ha 1,497円/俵	(30年度)326.6ha 1,467円/俵
4	大豆	大豆作付助成	作付面積 汚粒処理出荷物の 低減	(29年度)111.9ha 34.6%	(30年度)113.0ha 32.8%
5	小豆	重点作物振興助成 (小豆)	作付面積	(29年度)23.3ha	(30年度)23.5ha
6	てん菜	てん菜作付助成	作付面積 労働時間	(29年度)51.0ha 14.917時間/10a	(30年度)51.5ha 13.425時間/10a
7	馬鈴薯	馬鈴薯作付助成	作付面積	(29年度)27.7ha	(30年度)27.9ha
8	ブロッコリー	重点振興作物助成	作付面積	(29年度)11.0ha	(30年度)11.1ha
9	かぼちゃ、スイー トコーン	重点振興作物助成	作付面積	(29年度) 111.9ha	(30年度)113.0ha
10	アスパラガス、た まねぎ、とまと、 その他野菜、花 き・花木	振興作物助成(野菜 等)	作付面積	(29年度)77.6ha	(30年度)78.24ha
11	そば、なたね	そば、なたね作付助 成	作付面積	(29年度)16.9ha	(30年度)17.0ha
12	豆類、その他作物	振興作物助成	作付面積	(29年度)3.6ha	(30年度)3.63ha
13	地力増進作物	休閑緑肥助成	作付面積	(29年度)54.0ha	(30年度)30.0ha

※ 必要に応じて、面積に加え、当該取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定して下さい。

※ 目標期間は3年以内として下さい。

5 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり